

**論文タイトル(案)**

**建築におけるU I / U Xの特徴に関する研究**

—領域横断的比較を通じて—

keyword : 経路探索、空間探索、空間体験、ユーザーエクスペリエンス、インターフェース

**背景 (#001~#005まで変更無し)**

昨今、ユーザーエクスペリエンスデザインに関連した、建築業界内での建築情報学形成に関する呼びかけや、異業種からも建築や都市に対する働きかけがあり、機運の高まりが感じられる。

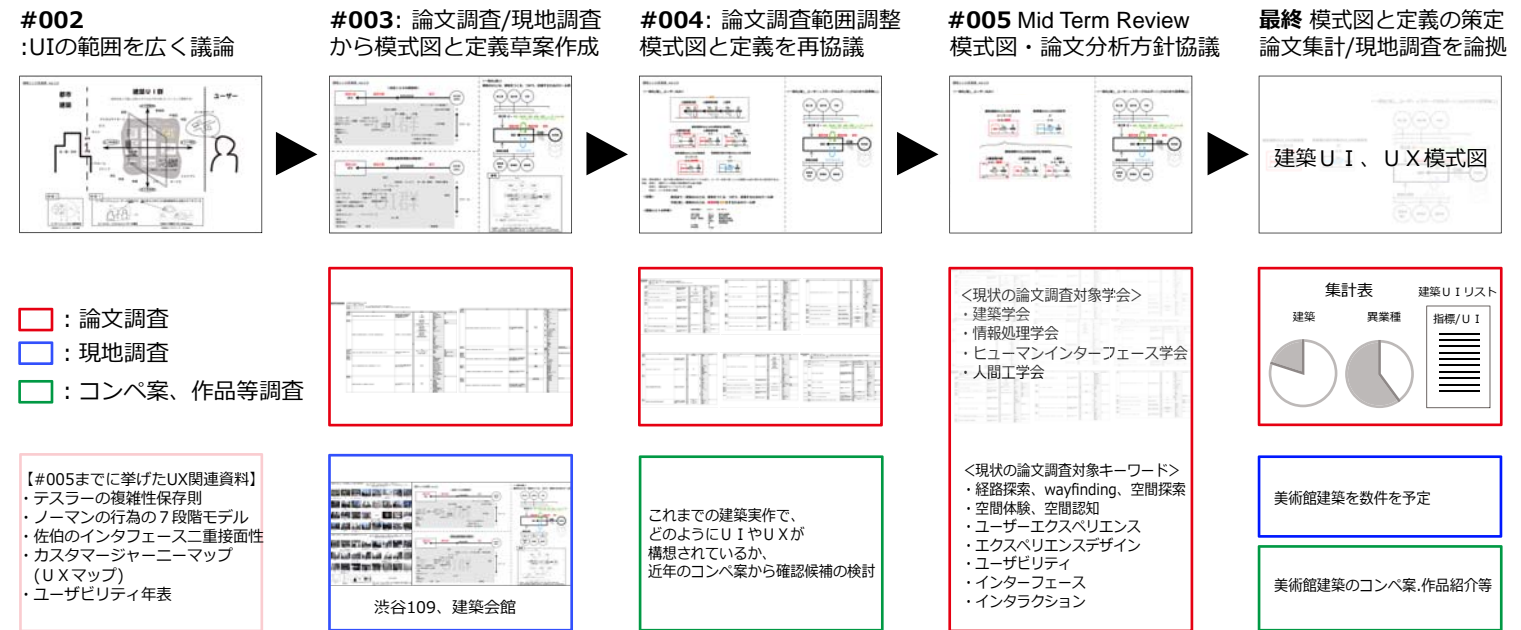
**目的 (#001~#005まで変更無し)**

建築、都市の領域におけるU I、U Xを領域横断的に定義付け、体系化して共有することにより、関連した手法・人材・市場を、流通・活性化させたい。

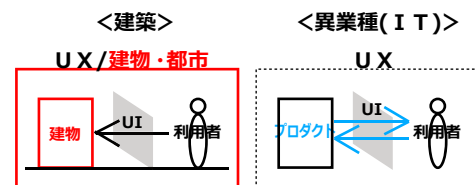
**研究手順(成果物の論文アウトライン)**

- 【先行研究】 建築の特徴は位相(空間)を扱うことである。
- 【仮説】 建築U I、U Xを考える際も、位相が重要なのではないかと
- ↓
- 【調査】 建築と異業種のU I、U X関連の論文や、各種資料(年表やメソッド)から調査する。
- ↓
- 【分析】 建築と異業種の位相等の取扱いの有無を集計する。
- ↓
- 【考察】 建築と異業種のU I、U Xを位相を考慮して模式化し、差異の要因を考察する。
- ↓
- 【結論】 建築U I、U Xの特徴が位相によるものであり、今後の領域横断的な関わりにおける重要性を示す。
- ↓
- 【付録】 U Iリスト(論文から)、作品調査(現地やコンペ案)、U I、U X関連参考書籍、用語集

**建築のU I、U Xの検討経過**



**論文分析方針**



1. ・建築は既存の都市(環境)の中に建物をつくる。  
 ・異業種は環境とは独立してつくる。
2. ・建築は人が入り得る位相空間をU I発現の対象とし、U Xの範囲をも規定し得る。  
 ・異業種は個々のユーザーのプロダクトに焦点を当てU Iを規定、U Xを想定している。
3. ・建築はU Xの範囲をも規定し得るが、U Iが位相的に変化するため、U I、U Xが曖昧になり易い。  
 ・異業種はU Iが明確なため(H C Dプロセス等の)評価のフィードバックを行い易い。

**<今後の作業方針・成果物>**

1. 建築と異業種の論文調査、分析、考察
2. 建築U Iの模式図、定義の確定
3. 位相(空間)の定義確定
4. 略年表作成(導入としてU I、U X史、今後の発展の可能性)
5. 付録作成

**<今後の相談事項>**

- A. 建築U Iの模式図、建築U Iの定義
- B. 論文分析方針
- C. 位相の定義
- D. 美術館建築調査の候補